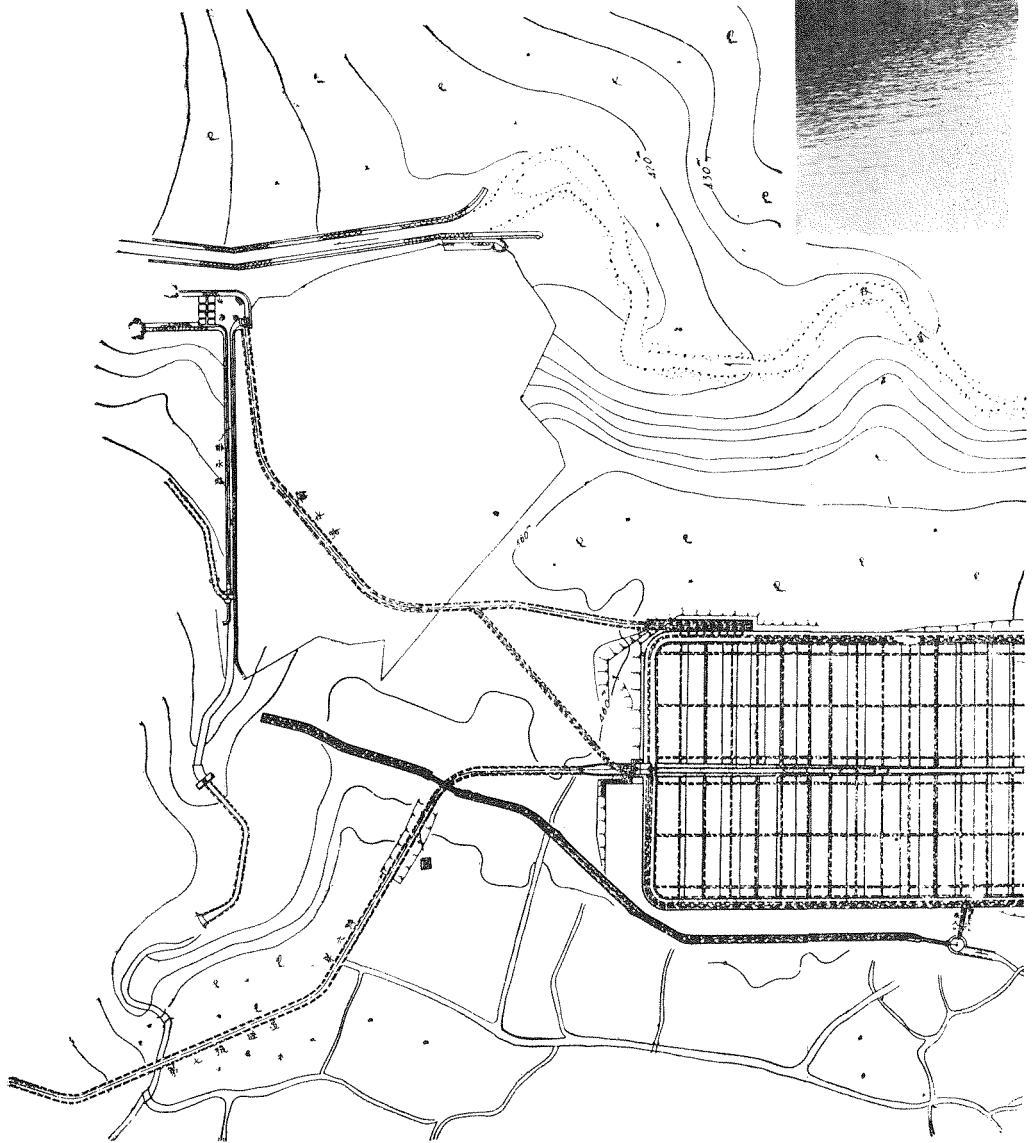
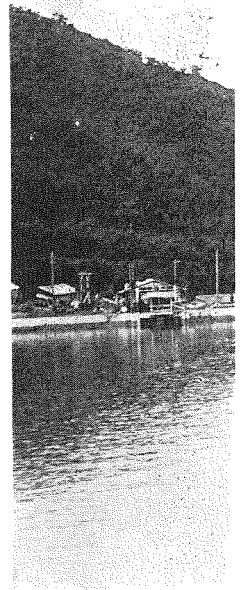
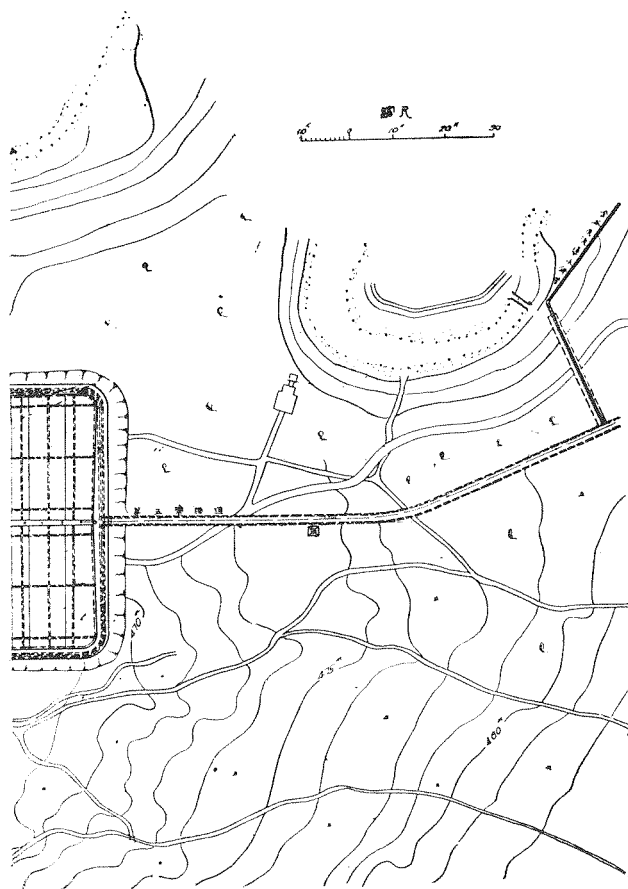


# 富山縣營小見發電所 逆調整池工事概況

富山縣電氣局技師 打 林 清 一



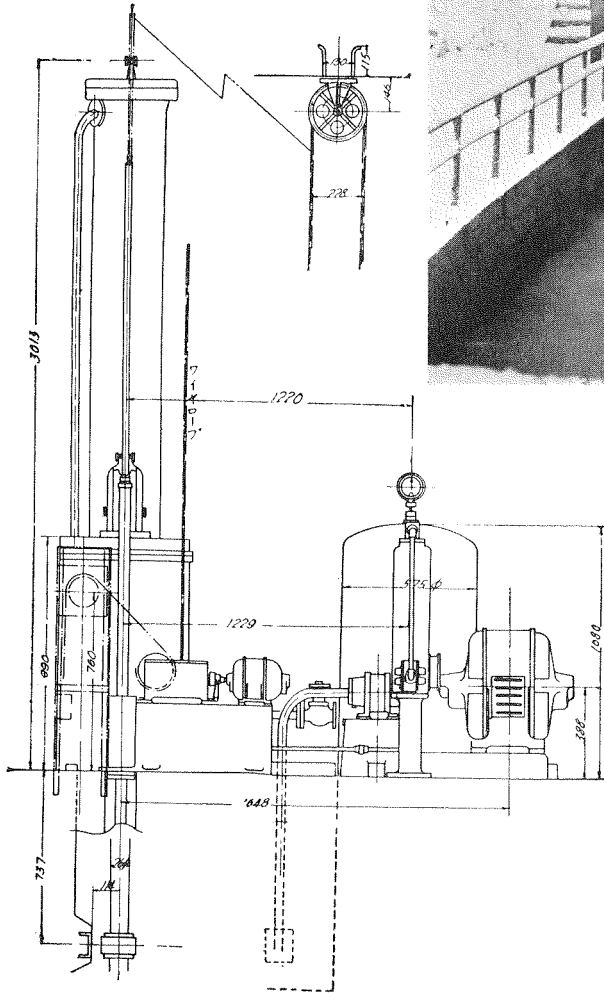
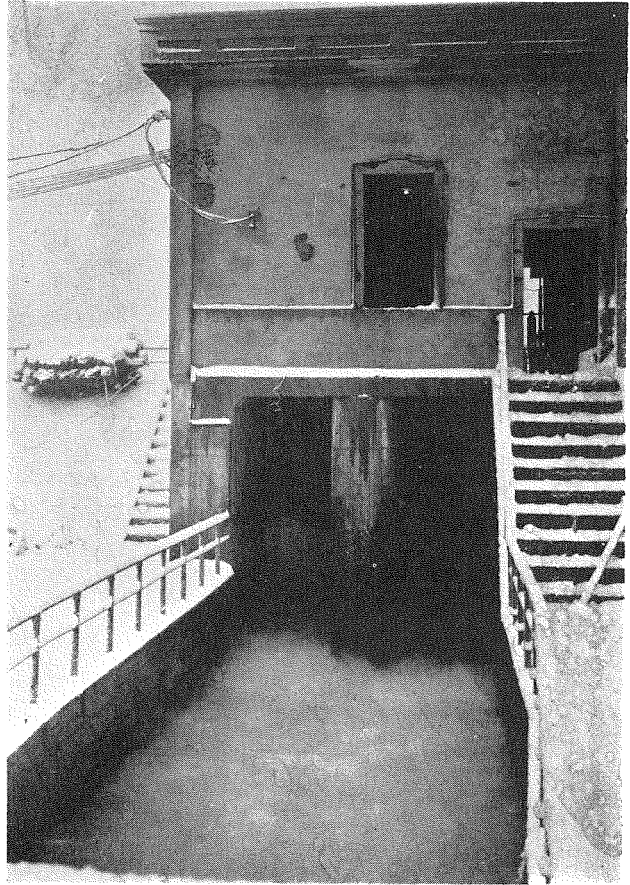


(1) 左圖は逆調整池附近實側平面圖。(2) 上の寫眞は満水せる逆調整池の一部を示す。

これは新年號第51頁より59頁にわたる打林清一氏の記事並に寫眞圖等と一諸に即ちその中に當然含まれて發表されるべきものでしたが、この分だけ後れて手に入つたのと誌面の都合で割愛したものです。

構造は鐵筋混凝土造、満水時水面長183米、幅103米、有効水深3米、總貯水量2,052,600立方尺、有効貯水量2,620,000立方尺で、位置は富山縣營眞川發電所と小見發電所の中間、眞川發電所は富山縣營既設發電所の最上流にあり165萬立方尺の容量を有する調整池があるので同發電所からの放水は自然不定量となり、それを利用する下流瀦電所に著しく不利な影響を及ぼすので、それを調整するために設けられたものです。新年號53頁より58頁までの打林氏の記事を御參照下さい。(編者)

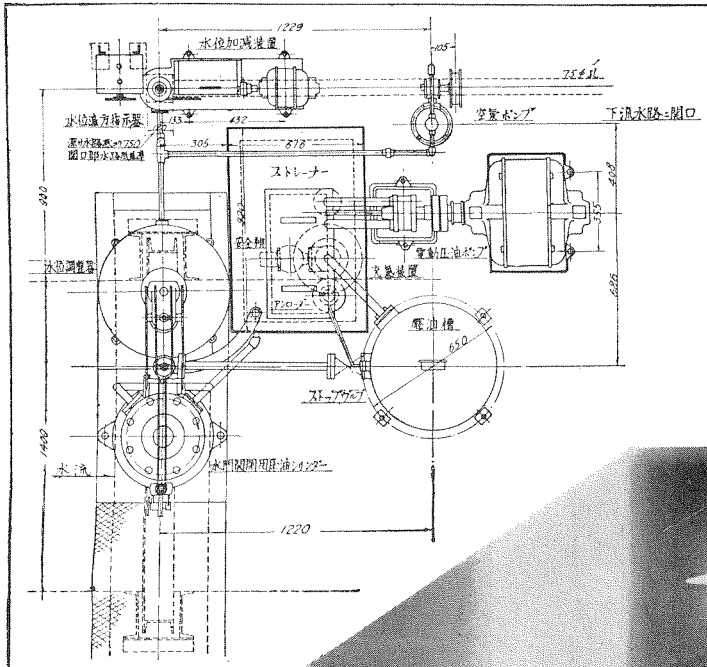
(3) 下圖は逆調整池自動水門  
据付圖。



(4) 逆調整池引水口及附屬開  
渠を下流側より望む。

寫真正面は引水口にして、左側  
水門は、電動式、右側は油壓式自  
動水門なり。逆調整池満水時其の  
水面と下流水路との水面差三米を  
完全に調整して、一定の水量を流  
下しつつある狀況。開渠は最大幅  
内法三米八〇釐、深三米、長十九  
米、鉄筋混凝土造り、跳躍水の波  
動を緩和するため設置す。

(5) 逆調整池自働水門据付圖。



(6) 逆調整池

引水口内部狀況。

寫眞左方は電動式水門。右方は油壓式自動水門兩屬機械類にして、右側圓筒は、水位調整器、中央圓筒は門扉に直結されてある水門開閉用油壓シリンダーなり

